



奥義抄中 繹

目録

後拾遺歌三十八首

- 一 せとちく歌
- 二 えのわせゆ
- 三 しりめい
- 四 うねの夜
- 五 すすめゆ
- 六 そよぐ
- 七 しのぶ夜
- 八 ふもと宿
- 九 あむかま歌
- 十 錦ふきとわ付錦の歌のう
美錦の歌のう
綿の歌のう
- 十一 くぬはり
- 十二 わらひ

四十
四十九
四十八
四十七
四十六
四十五
四十四
四十三
四十二
四十一
四十年
三十九
三十八
三十七
三十六
三十五
三十四
三十三
三十二
三十一
三十
二十九
二十八
二十七
二十六
二十五
二十四
二十三
二十二
二十一
二十
十九
十八
十七
十六
十五
十四
十三
十二
十一
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

三十
三十九
三十八
三十七
三十六
三十五
三十四
三十三
三十二
三十一
三十
二十九
二十八
二十七
二十六
二十五
二十四
二十三
二十二
二十一
二十
十九
十八
十七
十六
十五
十四
十三
十二
十一
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

拾遺歌七首

花の鳥居
かのと
まゆめ
ゆめ
拾遺歌二首
一
二
三
四
五
六
七
八
九

九つともり
十や跡ゆく
二十あはま

十四とものや？
十五もとく
十六あはま

十七もとく

十八もとく

十九もとく

二十もとく

二十一もとく

二十二もとく

二十三もとく

二十四もとく

二十五もとく

二十六もとく

二十七もとく

二十八もとく

二十九もとく

三十もとく

三十一もとく

三十二もとく

三十三もとく

三十五もとく
三十六もとく
三十七もとく
三十八もとく
三十九もとく
四十もとく
四十一もとく
四十二もとく
四十三もとく
四十四もとく
四十五もとく
四十六もとく
四十七もとく
四十八もとく
四十九もとく
五十もとく
五十一もとく
五十二もとく
五十三もとく
五十四もとく
五十五もとく
五十六もとく
五十七もとく
五十八もとく
五十九もとく
六十もとく
六十一もとく
六十二もとく
六十三もとく
六十四もとく
六十五もとく
六十六もとく
六十七もとく
六十八もとく
六十九もとく
七十もとく
七十一もとく
七十二もとく
七十三もとく
七十四もとく
七十五もとく
七十六もとく
七十七もとく
七十八もとく
七十九もとく
八十もとく
八十一もとく
八十二もとく
八十三もとく
八十四もとく
八十五もとく
八十六もとく
八十七もとく
八十八もとく
八十九もとく
九十もとく
九十一もとく
九十二もとく
九十三もとく
九十四もとく
九十五もとく
九十六もとく
九十七もとく
九十八もとく
九十九もとく
一百もとく

後撰歌四十九首

四

一 三柳のも
二 四河ひまみ
三 六河弓
四 八河弓
五 十河弓
六 八河弓
七 九月の弓
八 立より弓
九 七月の弓
十 九の弓
十一 七月の弓
十二 八月の弓
十三 九月の弓
十四 十月の弓
十五 十一月の弓
十六 十二月の弓
十七 一月の弓
十八 二月の弓
十九 三月の弓
二十 四月の弓
二十一 五月の弓
二十二 六月の弓
二十三 七月の弓
二十四 八月の弓
二十五 九月の弓
二十六 一月の弓
二十七 二月の弓
二十八 三月の弓
二十九 四月の弓
三十 五月の弓
三十一 六月の弓
三十二 七月の弓
三十三 八月の弓
三十四 九月の弓
三十五 一月の弓
三十六 二月の弓
三十七 三月の弓
三十八 四月の弓
三十九 五月の弓
四十 六月の弓
四十一 七月の弓
四十二 八月の弓
四十三 九月の弓
四十四 一月の弓
四十五 二月の弓
四十六 三月の弓
四十七 四月の弓
四十八 五月の弓
四十九 六月の弓
五十 七月の弓
五十一 八月の弓
五十二 九月の弓
五十三 一月の弓
五十四 二月の弓
五十五 三月の弓
五十六 四月の弓
五十七 五月の弓
五十八 七月の弓
五十九 八月の弓
六十 九月の弓
六十一 一月の弓
六十二 二月の弓
六十三 三月の弓
六十四 七月の弓
六十五 八月の弓
六十六 九月の弓
六十七 一月の弓
六十八 二月の弓
六十九 三月の弓
七十 七月の弓
七十一 八月の弓
七十二 九月の弓
七十三 一月の弓
七十四 二月の弓
七十五 三月の弓
七十六 七月の弓
七十七 八月の弓
七十八 九月の弓
七十九 一月の弓
八十 二月の弓
八十一 三月の弓
八十二 七月の弓
八十三 八月の弓
八十四 九月の弓
八十五 一月の弓
八十六 二月の弓
八十七 三月の弓
八十八 七月の弓
八十九 八月の弓
九十 九月の弓
九十一 一月の弓
九十二 二月の弓
九十三 三月の弓
九十四 七月の弓
九十五 八月の弓
九十六 九月の弓
九十七 一月の弓
九十八 二月の弓
九十九 三月の弓

九批七批五批三批一批九批 七批五批 三批一批九批七批五批三批一批

وَمَنْ يُعْلِمُ
أَعْلَمُ بِهِمْ

はるかの處
にまつて
はるかの處
にまつて

おのれわせに
おののまへる
やまくらひ

二十九四十九六十九八十九十三十九二十九四十九六十九八十九四十九六十九八十九
十四
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百
一百零一
一百零二
一百零三
一百零四
一百零五
一百零六
一百零七
一百零八
一百零九
一百零十
一百零十一
一百零十二
一百零十三
一百零十四
一百零十五
一百零十六
一百零十七
一百零十八
一百零十九
一百零二十
一百零三十一
一百零三十二
一百零三十三
一百零三十四
一百零三十五
一百零三十六
一百零三十七
一百零三十八
一百零三十九
一百零四十
一百零四十一
一百零四十二
一百零四十三
一百零四十四
一百零四十五
一百零四十六
一百零四十七
一百零四十八
一百零四十九
一百零五十
一百零五十一
一百零五十二
一百零五十三
一百零五十四
一百零五十五
一百零五十六
一百零五十七
一百零五十八
一百零五十九
一百零六十
一百零六十一
一百零六十二
一百零六十三
一百零六十四
一百零六十五
一百零六十六
一百零六十七
一百零六十八
一百零六十九
一百零七十
一百零七十一
一百零七十二
一百零七十三
一百零七十四
一百零七十五
一百零七十六
一百零七十七
一百零七十八
一百零七十九
一百零八十
一百零八十一
一百零八十二
一百零八十三
一百零八十四
一百零八十五
一百零八十六
一百零八十七
一百零八十八
一百零八十九
一百零九十
一百零九十一
一百零九十二
一百零九十三
一百零九十四
一百零九十五
一百零九十六
一百零九十七
一百零九十八
一百零九十九
一百零一百
一百零一百零一
一百零一百零二
一百零一百零三
一百零一百零四
一百零一百零五
一百零一百零六
一百零一百零七
一百零一百零八
一百零一百零九
一百零一百零十
一百零一百零十一
一百零一百零十二
一百零一百零十三
一百零一百零十四
一百零一百零十五
一百零一百零十六
一百零一百零十七
一百零一百零十八
一百零一百零十九
一百零一百零二十
一百零一百零三十一
一百零一百零三十二
一百零一百零三十三
一百零一百零三十四
一百零一百零三十五
一百零一百零三十六
一百零一百零三十七
一百零一百零三十八
一百零一百零三十九
一百零一百零四十
一百零一百零四十一
一百零一百零四十二
一百零一百零四十三
一百零一百零四十四
一百零一百零四十五
一百零一百零四十六
一百零一百零四十七
一百零一百零四十八
一百零一百零四十九
一百零一百零五十
一百零一百零五十一
一百零一百零五十二
一百零一百零五十三
一百零一百零五十四
一百零一百零五十五
一百零一百零五十六
一百零一百零五十七
一百零一百零五十八
一百零一百零五十九
一百零一百零六十
一百零一百零六十一
一百零一百零六十二
一百零一百零六十三
一百零一百零六十四
一百零一百零六十五
一百零一百零六十六
一百零一百零六十七
一百零一百零六十八
一百零一百零六十九
一百零一百零七十
一百零一百零七十一
一百零一百零七十二
一百零一百零七十三
一百零一百零七十四
一百零一百零七十五
一百零一百零七十六
一百零一百零七十七
一百零一百零七十八
一百零一百零七十九
一百零一百零八十
一百零一百零八十一
一百零一百零八十二
一百零一百零八十三
一百零一百零八十四
一百零一百零八十五
一百零一百零八十六
一百零一百零八十七
一百零一百零八十八
一百零一百零八十九
一百零一百零九十
一百零一百零九十一
一百零一百零九十二
一百零一百零九十三
一百零一百零九十四
一百零一百零九十五
一百零一百零九十六
一百零一百零九十七
一百零一百零九十八
一百零一百零九十九
一百零一百零一百

十四批二批四批六批
卷之三

十四批二批四批六批八批
ナラハシタマツリ
ナラハシタマツリ

大原とお

卷之三

古譜五十首

一

卷之三

二勝麻の真向

三寮野行

四
卷之三

立山鳥の

大あひ雀

七三

八ももめのや

九三

十をうつみの

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

七北六北四北二北十三北八北七北五北三北

あもめ

八北

あもめ

九北

あもめ

十北

あもめ

十一北

あもめ

十二北

あもめ

十三北

あもめ

十四北

あもめ

十五北

あもめ

十六北

あもめ

十七北

あもめ

十八北

あもめ

十九北

あもめ

二十北

あもめ

二十一北

あもめ

二十二北

あもめ

二十三北

あもめ

二十四北

あもめ

二十五北

あもめ

二十六北

あもめ

二十七北

あもめ

二十八北

あもめ

二十九北

あもめ

三十北

とひりけら
まくらげ
牛の身み
かき鳴き付くらす
七批五批三批一批九批

十四
やまれら
ばくり
をのじれ
かほる
八批六批四批二批

十九批

ひのわゆ付くらす
月のわゆ

十五批
かき鳴き付くらす
うもりくと風の下まで
かき鳴き

奥義抄中 翻

後拾遺

春

一
かき鳴き付くらす
丁度すうかこのうのからを耶
毛も捨遠よはきもさよのうとひい鳴き
彈すうかひきのせうのうとひく
とひく

二
うとうとれのれふせうの鳴き

うとうとれのれふせうの鳴き

桃李不言自成蹊と云ふ事也あくへんの事
もうつる李廣といひ、其のまゝとてく
まゝうつる事もてくらむ一ムモ徳わざれりて
まゝうつる事もてくらむ一ムモ徳わざれりて
タリと金川もてくらむよしよし
ものつる事もてくらむよしよし桃李とてくらむ
じゆすゑはなにほきれむとくらむよしよし
石松もとしのいふくらむよしよし

夏

三
すくぬるるのひまくとくらむよしよし
タリとくらむよしよし
まゝとくらむよしよし
鷹の巣のすの圓のわ増のぞす
鷹の巣のすの圓のわ増のぞす
すくよからとて要うはひのあ野の巣のす
のゆよもひもぬま毛けもあらそくひゆのえ
よきひものいはくとくへ或おも詫たずるをもよるよくさ
あら鷹たかとくすととせとせとけりやる所ところ
てよきよもとくとくとくとくとくとくとくとく
之百首しゆ

おのれのゆゑかくともかきよる
まきゆるのゆゑかくもかきよる

とまかひ、通すひあつともふれあへてあ
へまわりやう

四
暮の夜をかう月の明る
みあはれとて思ふ
月照平野裏宿と云ふ也

神

ましのゆきかねのゆか
わきよかのゆかのゆか
えきよかのゆかのゆか

わらのうとまう馬とつを
七
あくまくのうれ爲よやきのれ
まゆのやへゆるもむじすり
まくは馬樂のうるまくみゆみ
まゆのけゆのとをかがくとえ方樂の
まくまくはまくまくとあわすへかくの
のへゆくとまくけくのすくまく
まくまくの花のうるまくもむろやうよ
まくまくとまくまくとまくまくの圓集云
ほくつるわのさんんのまくまく
まくまくとまくまくとまくまく
まくまくとまくまくとまくまく
まくまくとまくまくとまくまく

誰謂水無忘濃艷隱而浪裏通
九
花自知深淺而不知其深淺也
是水花中偏愛菊此花開後更無花與之

九
是水花冲徧愛萬此花開後更無也只云約
花のうづれひくすまゆふ
冬
十

冬

蜀江濯錦と云文あり春郊よ

それの竹をもじりてすみれの

すみれとすみれとよしに

とあさき音もあらわすひよせ
錦の色れよしとひゆきだら

うきよかめりの又裏鱗の錦とよ
きあり二疏あり一ハ裏鱗ハスリナリ

一ハ裏鱗と焼てまのじと錦よせと色の
よしに也

贊

土

えもつよしかむりのあくらまつる

かくひ無いあくまうとも
徳是北辰椿葉影再改と云文の如古大椿者
以八千歳為秋以八千歳為春也

浦ちよやうすもよあり

土

あらばるちよよひくらをやうりの

もくもくかくはくまとけくまく
泰山不讓土壤故成其高と云文の如又古今

序とも云ふなり

十三
ひきのとくもあまうむとほりより
明王時者黄河一清とつぶのあまよゆる
ませてよあらば

別

十四
かへりやせりのくにわくまゆ
正月の日はひのきと
楊枝踏渭我送人年李門波高人送戰何日
と云ふとどりてよあら

表

十五
そりははさゆるゆりをひどりへのち
つるのやせれぢうとすき
薦つたとひの佛化纏つまて入滅
とゆゑをひよくてひまほのとく
沙羅林とすて佛の入滅の時本ひきて白鳥
の鶴すうきのうち鶴林といふ

惠

十六
かとよみやうかされよも
けともれすよみよひは
すまのうりはよめのよめのよみよきとか

七
り見ゆる所はすくにこなへぬれ
ものゆのやひの、こちとせき
もち縫馬樂れん也 いかのようと
おひがとまきとがまくひすうつむけ
そらのあひゆるをかくとひすと
あらわり

雜

六
ゆもせゆつともあらめくもくゑ
あらとづのむとくまよ
ちかのゆみをめくわせあとゆくと
もゆのやうゆのゆのゆのとくとてへも
くとくくくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
くとくとくとくとくとくとくとくとく
九
はれふとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
伯牙鍾子期とひく二人の琴はよきわいき
鐘子期とひくとひく伯牙とひくとひくと
ひくとひくとひくとひくとひくとひくとひく

三

さうのはうものあくはれうきくゆ

まくわらへせりとちくくせん

雪中放馬朝尋跡とゆく諭の久

七

さとうのあめの月城すまつ

文集

よ萬く勝雨打窓簾とづくとよあくま

一

えきち上陽人のとく去宗とやけうみとの時

上陽人

たかとてまのをのくまう楊貴妃よも

めくきておとまくみとよもくとよも

一

まくとくとくよしとてあくわく

自

じくとくとくとくとくとくとくとくとく

あ

ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

世

のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

祿

山とくひくとく揚貴妃とくとくとくとくとく

し

ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

拾遺集序云

通濟年云

通潤年云

わくわくする心地よ
お風呂をかわ
物語り、歌謡歌
歌と歌の世界
見ゆるはうらやま
女根奇とおもひれ

拾遺集序

おまかせの事は、とてつて
あらがうるまく、おまかせ
おまかせの事は、とてつて

卷之二

三

アマテラスノミコトトナヒサシム

ハリミニ不覺内被裏有無價寶珠の事佛
道のつとめれ事とわるともすまむ也

廿

アマテラスノミコトアマツサルモヤキ

聖德太子とくとくせよとくとく
文殊の音とくとくとくとくとくとくとく
太子のとくとくとくとくとくとくとくとく

廿五

アマテラスノミコトアマツサルモヤキ

太上天皇とくとくとくとくとくとくとくとく
信とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
生れ海とくとくとくとくとくとくとくとくとく
竜空とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
み經とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
てかとあまとくとくとくとくとくとくとくとく

卷之二

卷之三

燕の太子丹とて秦の始皇の時秦より馬を
取て國よりかてびとどうと云ふとゆふす鳥飛
らも飛くばり馬よ前れぬひうん時すり人を
つまうとのまゝ飛くとあくまですけく
よやくらまくらよくすのやうらもくらもく
ゆひきむりきもみとくしもゆきうてかく
一馬の名ひめく

人ノ也スルノ事ハ勿ヘリトヨ
送也平軸（ひづる）金玉聲龍門原上土埋骨不
理石（いし）詩の意（み）是も源興云とシ
人天台山の賊（くわい）と傳（つた）ひそかに之よりけ
モテヨ金玉の響（ひびき）れまくとも文と似（おな）む
もゆゑくれど也

老
かへりしるべのれんのうきゆふと
えきてむくらはるのばくとも
黄壤誰知我白頭獨懷君唯時老年淚一灘故
人丈と少崎

九

蒙古文

لَا يَرْجِعُونَ
إِنَّمَا يَرْجِعُونَ إِلَىٰ مَا
كَانُوا بِهِ يَعْمَلُونَ
وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا
يَعْمَلُونَ

卷

九

まほのとよとよとよとよとよとよ

地の火を燃まし

此のくわきの匂は
さへ六衆は大風のよ相方辯とひき合
争ひれども太陽はちるの風籠ひまく徳の志
とまねの心よりよしよしよしよしよしよしよし
よしよしよしよしよしよしよしよしよしよしよし
よしよしよしよしよしよしよしよしよしよしよし
よしよしよしよしよしよしよしよしよしよしよし

देवता द्वारा देवता की देवता

三
之
年
也
不
可
以
不
使
之
也

وَلِلَّهِ الْحَمْدُ لِأَنَّهُ أَعْلَمُ بِكُلِّ شَيْءٍ

樂の声より春萬轉と云ふ樂の名也すか
轉ひしへうとよじだら

北五
ノリヘキモト めもわく

六
儀馬樂よりかくもとひのくわゆとめどり
ものあらやのきよくめくじよくひと云

あらんこやまのとこ
とうれ園のとこをよそ人のゆきよひ
よしよしよしよしよしよしよしよしよし
あらんこ野叟のとこ

卷

あめのちくわくしのみこときと
ゆうまつせりの日高アマツシマツ

神カミのひよんとゆえます
いひとあるまへとてひるう
わくひよどりをもせやアマツシマツ
じ神カミのひよんとよ

火

かのひよんのくまにゆる

まき

まきとひよんわすりゆす

法華經ハツケイジの三車サンサのよしのく味ウカニの無^{ナシ}經キヨ

經キヨと題タトすとよも年ハセリと

拾遺抄

春

一

あめのちくわくしのみこときと
ゆうまつせりの日高アマツシマツ
あめのちくわくと或人光蓬アマツシマツの
火はわと云被アマツシマツわからむかひて
まきとよも年ハセリとよも年ハセリと
かのひよんとよも年ハセリとよも年ハセリと

春が来るとあらわす
人見ゆ事
のとよあとよ鶴の音すわ

長

三
タマモトノミコトハアハハニテ
トコトスミムニテ日本記云天照太神の御
孫皇孫命と葦原中国圓の主とせりとあ
リシヨウルアメノツクニヒル光神とよひ鰐聲耶神
タマモトノミコトハアハハニテ
トコトスミムニテ

まつやうのあいかわのあまくらを
きめじとてお月夜のまこと萬葉の和歌
歌とて歌ふておもての衆鼓譟雷
とて空の意也とて歌人もおきと歌とも
おこす萬葉にかかへてお歌と
おじへておとせりとお歌とお歌と
おとせりとお歌とお歌とお歌と
おとせりとお歌とお歌とお歌と
おとせりとお歌とお歌とお歌と

此卷之序
序文
序文

秋

112

112
仙臺の氣れぬに山の氣れぬ
ありげ

九

九

蒙古文

わめれトソシテ

山喚万歳とふれわま世すと、

とのりきうとその半也史記よみる

六 うちよへそりうそひのじくも

もがくもわひそ／＼まづる

漢武帝ハ仙の御とひくとりそ／＼

人之七月夜漏す面玉々と云仙人紫もすの

て武帝の蓬花殿よしろ月す東方朔とす

の御まへるわ／＼時くきて屏風のみ

よさうと不苑のあと主母つまこと

アラヒとせひく柏七枚とどもてもひの

柏とそひの門のそすくみあひく

アラヒとせひの門のそすくみあひく

きち二千年よ一度けりまゆりトおよふ

つまひのわ／＼とみ屏風のうちよむう敷

そそ處ぬしてまくまよとみ東方朔と仙

人之仙えの柏とみの主母つまこと

アラヒとせひの柏とみの主母つまこと

とく青島とひの

セ もうばにけまくらとくもまくら

別

八
あらむはよめきうわやくまきと
うひくのりへんと人をうひくと
百詠云黒雲鶴似啼粧花の病よめきうわや
人のうひくがやくまきと

九
かくよまよづきのうらのうらをい
ときじつとおのれのきよ
わざくわざよ香薬やうどよあら香すり
あらとあらは蓮葉へがめの背よあら山のせ
もと蓮葉とい不純の葉れあきこくづき

のうかくとくわんじゆく

卷之三

十
やくのゆきとれどもこのとてはく
ひきまつてわらゆきのめまづり
やまとと八百日ゆきのめとよみとよ
もととてゆきとす神

卷之三

近江國のあらわしと疏前國のあらわし

此中無事可爲，但得一處安身，便勝前時萬倍。

主
をもてのわがのゆゑ

のやうに此のまゝであつて
諫と申しましてはあらへど
うのまことにとて又はるかに

難

古
のうへりのひのやつへわく
れうりりりりりりりりりりりり
或人云主敵の下部を伴氏とあるも
り、とれ民の名のうとすと伴のえ
とあらのるのるのとすとすとす
とく國の娘めいとくの御奴ごのめとくの御女ごのめ

と云ひわざの事も
津の氏れゆはご

十五
あらわるるのものうりよひしよみれ
まゆとのとひやまくをきをす
うきも慶雲のこうとよもくみと宿のあ
きのよそむくの紫のきれいと南中紀云
紫雲之端膺堯と生也雲向於北斗乘南風
雲瓏漢之上到堯母感氣杖袖雲愛之下入
堯母之懷堯と姓をうそ

えうそどもあらわす

向ふうてとひ花のよしとひをも
うとつまよせ立教のりよがくでく
のあらわくよみとひをかくでくも
もとの義へるひくわくわくをくす
養ふあらわの義へるひくわくわくをくす
モ

あらわのうわくわくをくす

大和國の後悔婆塞と云ひるのゆゑ

まのうんとひくはくをくよのゆれあひ
よ機知をくよとひくはく日輪圓のゆくよお
あひかくよとすゆ一言主とひ神一應志
わひくよれぬのゆれのゆのゆとく
にはめくひくはくらむくわくわくくわく
よくよと後悔をくよとひくはくも
わくとくよとせんよ神をくちて俺
宣先と帝よ奉先とくよく後悔婆塞と云
の主徳をくよじとくよとくよと
くよとくよとくよとくよとくよと

うへはうり山神の御事多世わんと
とくとく命とをくらへよとがくのく春
もくもくして人宿つりて、宿とへて
やうやうふ健ひのくはうきぬめえと
そじとどまははうくの教えわのんとくへ神の
魂言ふむくゆやまの行者とはせやうと
それゆうわのねくわのねくわくみくみくと
考とみとくとくひくめりへきのあら
假行者ゆのとくとく護法とりじくは神と
もりもく廣へよる、金舉の纏

大
久のほれはもねらううり

象のをばくせうへ神

折樹葉ともすとあらのむかへ進士うくよ

けうかく象のをとくの業とはくう
くのりのうととあるへ八極のく百諦注云
南州八桂樹わの生月中月滿うへ脚極の生
也用注云月中玉兔わの月陰之精成獸也

丸

うへはうり山神の御事多世わんと

卷之三

卷之四

トモエウツヒトモウタモシヒネのトモエ

人言梅雨量多
而此地少
終日見晴天
而不知其故
予笑曰
此乃天公之恩也

心身の爲めに、

千と千と千と千と千と千と千と千と千と千と

如是者數日，

秦の二世はトサハ趙高と謀り大臣九世祖

すとゆりひく威の御とぞじ
あと紙もゆのとて人とよもてよきの
一と人といゆうとのよもとんと趙を
よせらく馬よ候とよりをもよ威によれ
黒と隠えとゆつむのとぞ見ゆ

一〇四

水

四
五
六
七
八
九

自來之傳授者、又の自らの所作と
有識見のあらゆる法華經とくらべて

うのむとほそて千年もつゝくのうえ
かくひきを貯めみゆきとくらむとて
うなづくとくらむとてはくとくらむとて
うえくとくらむとてはくとくらむとて
うひくとくらむとてはくとくらむとて

いは

とひかどはるて千年もてつぐものうえ
かくもひきとおもひぬほどのうえのうえ
とひかどはるてうるわしゆふきよのうえ
とひかどはるてうるわしゆふきよのうえ
とひかどはるてうるわしゆふきよのうえ

三
酒
井
い

